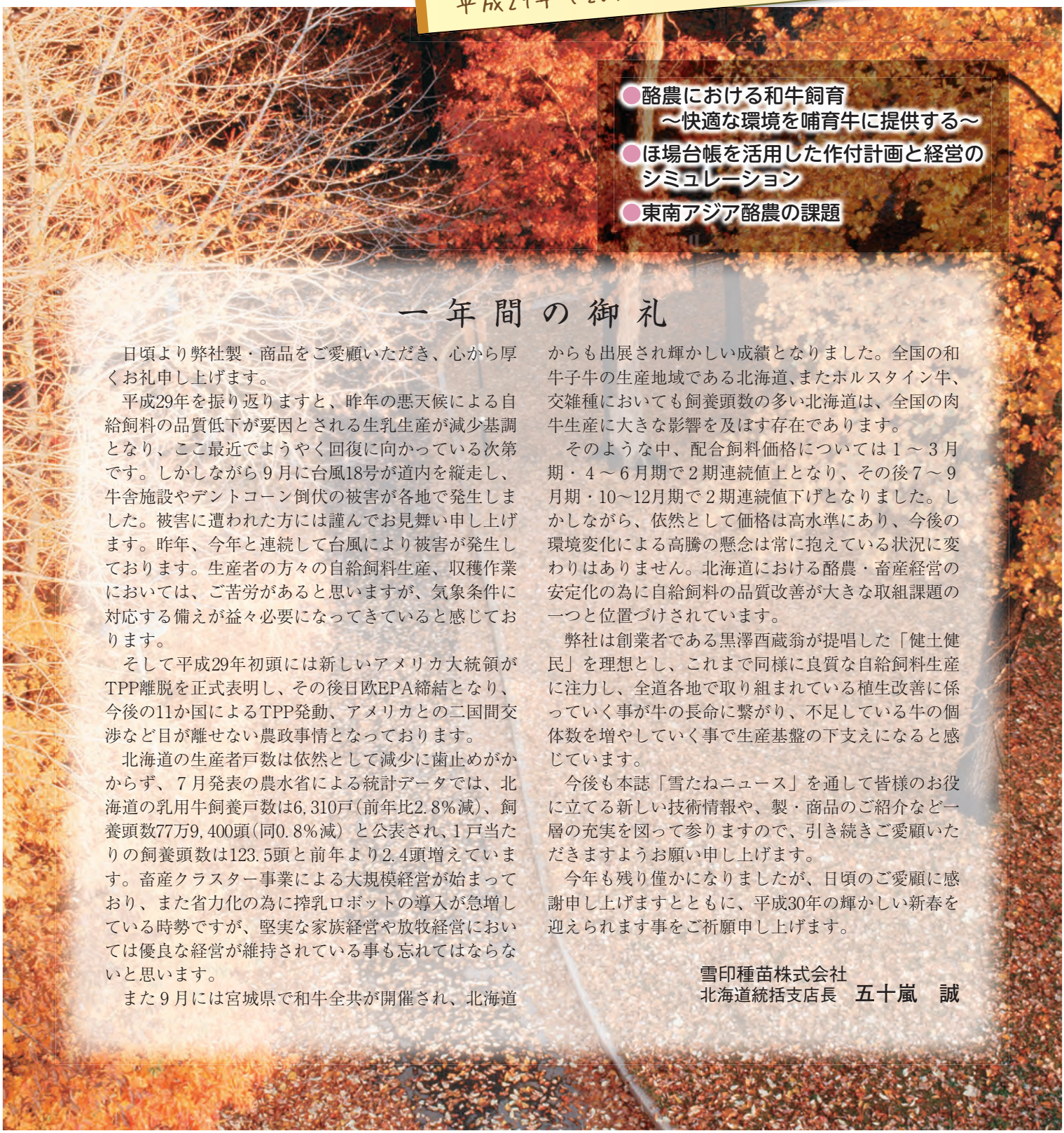
北海道版2017.11

雪たねニュース

Yuki Tane News　No.376

平成29年（2017年）11月1日発行（隔月1回1日発行）



- 酪農における和牛飼育
  ～快適な環境を哺育牛に提供する～
- ほ場台帳を活用した作付計画と経営のシミュレーション
- 東南アジア酪農の課題

一年間の御礼

日頃より弊社製・商品をご愛顧いただき、心から厚くお礼申し上げます。

平成29年を振り返りますと、昨年の悪天候による自給飼料の品質低下が要因とされる生乳生産が減少基調となり、ここ最近でようやく回復に向かっている次第です。しかしながら９月に台風18号が道内を縦走し、牛舎施設やデントコーン倒伏の被害が各地で発生しました。被害に遭われた方には謹んでお見舞い申し上げます。昨年、今年と連続して台風により被害が発生しております。生産者の方々の自給飼料生産、収穫作業においては、ご苦労があると思いますが、気象条件に対応する備えが益々必要になってきていると感じております。

そして平成29年初頭には新しいアメリカ大統領がTPP離脱を正式表明し、その後日欧EPA締結となり、今後の11か国によるTPP発動、アメリカとの二国間交渉など目が離せない農政事情となっております。

北海道の生産者戸数は依然として減少に歯止めがかからず、７月発表の農水省による統計データでは、北海道の乳用牛飼養戸数は6,310戸（前年比2.8％減）、飼養頭数77万9,400頭（同0.8％減）と公表され、１戸当たりの飼養頭数は123.5頭と前年より2.4頭増えています。畜産クラスター事業による大規模経営が始まっており、また省力化の為に搾乳ロボットの導入が急増している時勢ですが、堅実な家族経営や放牧経営においては優良な経営が維持されている事も忘れてはならないと思います。

また９月には宮城県で和牛全共が開催され、北海道からも出展され輝かしい成績となりました。全国の和牛子牛の生産地域である北海道、またホルスタイン牛、交雑種においても飼養頭数の多い北海道は、全国の肉牛生産に大きな影響を及ぼす存在であります。

そのような中、配合飼料価格については１～３月期・４～６月期で２期連続値上となり、その後７～９月期・10～12月期で２期連続値下げとなりました。しかしながら、依然として価格は高水準にあり、今後の環境変化による高騰の懸念は常に抱えている状況に変わりはありません。北海道における酪農・畜産経営の安定化の為に自給飼料の品質改善が大きな取組課題の一つと位置づけされています。

弊社は創業者である黒澤酉蔵翁が提唱した「健土健民」を理想とし、これまで同様に良質な自給飼料生産に注力し、全道各地で取り組まれている植生改善に係っていく事が牛の長命に繋がり、不足している牛の個体数を増やしていく事で生産基盤の下支えになると感じています。

今後も本誌「雪たねニュース」を通して皆様のお役に立てる新しい技術情報や、製・商品のご紹介など一層の充実を図って参りますので、引き続きご愛顧いただきますようお願い申し上げます。

今年も残り僅かになりましたが、日頃のご愛顧に感謝申し上げますとともに、平成30年の輝かしい新春を迎えられます事をご祈願申し上げます。

雪印種苗株式会社
北海道統括支店長　五十嵐　誠